

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：23901
 研究種目：基盤研究(S)
 研究期間：2007～2011
 課題番号：19102002
 研究課題名（和文） 戦（いくさ）に関わる文字文化と文物の総合的研究

研究課題名（英文） Study of Literature and Culture Related
 With War Affairs

研究代表者

遠山 一郎 (TOYAMA ICHIRO)
 愛知県立大学・日本文化学部・教授
 研究者番号：80132174

研究成果の概要（和文）：古代から近代に渡り、戦が文化・文物に影響したさまを広く研究し、中国・朝鮮との関わり、さらにヨーロッパとの比較の視点をも取り入れて、総合的な研究を実現した。2007年から2011年の5年間にわたって催した研究集会・講演会、文物の展示会、伝統芸能の実演によって約2,200名の参加を得、学術研究を広く地域の人々とも共有するという当初の狙いを具体化した。これらの成果をもとに単行本5冊と、語りの実演にその語りの本文に索引を付けたDVD1つを刊行し、研究集会と伝統芸能の映像記録も2つのDVDに残した。

研究成果の概要（英文）：This research successfully realised a wide range of study of literature and culture related with war affairs. International views such as Chinese, Korean and European were introduced into this research. Conferences, exhibitions of inherited arts and books and performances of traditional dances and recitations were organized during 2007 to 2011. About 2,200 people in total joined these conferences and performances which helped to share the research with local people. This research project published five books which covered matters of war affairs and one DVD which recorded a recitation of an old tale. At the same time, this research recorded traditional theatrical performances by two DVDs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	7,400,000	2,220,000	9,620,000
20年度	19,300,000	5,790,000	25,090,000
21年度	6,800,000	2,040,000	8,840,000
22年度	18,900,000	5,670,000	24,570,000
23年度	10,100,000	3,030,000	13,130,000
総計	62,500,000	18,750,000	81,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本文学、国語学、日本史、文字文化財、戦争、芸能、都市形成、景観

1. 研究開始当初の背景

日本においては古代から近代に渡って対外接触がたねに見出される。古代では中国、朝鮮との関わり、中世では中国・朝鮮・ヨーロッパとの接触、近代ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカとの関わりである。対内的にも、

古代には中央政権と周辺政権との間の接触があった。それら他地域との接触には心理的・物理的な摩擦が伴っていた。その摩擦に共通する要素の一つが戦である。そこで、研究対象の領域・時代を異にする研究者が本研究を構成することによって、戦に関わる人

の営みの総合的な探究を進めようとした。

2. 研究の目的

本研究は、日本を中心に据えつつ、戦によって技術革新が進み社会構造や文化・文物が変わるさまを明らかにしながら、人生観、死生観、戦と戦死者に対する認識の仕方が戦前、戦中、戦後で変化の様相等を、人文学の諸分野の学際的研究によって総合的に捉えようとした。本研究は、従来の軍記文学や戦記文学の研究とは異なり、古代から近代に渡る全時代の戦を一連の歴史事象、社会事象、文化事象として捉えようとした。具体的には、次の4つの課題を立てた。①「古代の戦と社会と人」：1世紀ころから記録された日本列島の対外接触とその結果であった7世紀の白村江の戦・壬申の内乱が、日本列島の律令国家体制と「日本」という国家意識の成立を促した。同時に朝鮮半島からの亡命知識人による文化・技術の革新が行われた。律令国家の伸張に伴って東北地方への移民が行われ、8世紀には30年を超える争乱が起きた。これらが古代日本の社会と人の意識とにどのように影響したかを研究する。②「戦を語る表現と言葉」：古代末期の源平の争乱の様相を説話文学、軍記文学、中世・近世の謡曲、寺社縁起等のなかに探ろうとした。これらを対象に、戦の経過とその中での人の叙述、戦の最中の叙述と戦後の記憶による叙述との相違等に焦点を合わせて研究しようとした。また、日本語学からの研究も行った。源平の争乱による社会の変化が古代語を収束させて近代語に変化させる要因になったからである。③「文化・政治としての戦とその周辺」：戦国期の城郭・城下町は、戦への備えでありつつ、地域社会における経済・政治・文化の中心地でもあった。本研究が重要な調査対象とする蓬左文庫所蔵本・徳川美術館伝来品は、元和偃武にともない徳川家康が初代尾張藩主徳川義直に譲り渡した書籍・文物を核としており、戦後の世相安定のための文化政策のあらわれであった。ほぼ同じ時代にヨーロッパ諸国において城郭を中心に都市が作られ、その絵図が描かれた。しかも都市遺跡の保存状態が良い。国内・国外のこれらの資料を、城下町・都市の形成、戦に関わって書かれた文献、文化政策としての文庫、戦時と平時の文学作品の記述にあらわれた相違等の諸側面から研究した。④「近代の戦争と人の意識、その表出」：近代日本が体験した数度の戦は、それぞれに社会と人の認識の変化をもたらした。また、作品の叙述・表現の特徴にも戦が影を落としている。これらの問題を、社会状況に積極的に関わろうとした文学のなかで、戦に直面した人の心の問題として捉えようとした。この研究を進めることに

よって得られる成果は、戦を起こさせないための、そして不幸にして起きてしまったとき少しでも良い方向を得るための手がかりをもたらすであろう。人文系の研究者の集団として世に役立つ道の一つを探ろうと試みた。

3. 研究の方法

代表者の統括のもと、上記の研究の課題ごとに分担者を配置した。各課題に連携者・協力者を求めて3人前後からなる研究グループを設けた。各自が研究を進めながら、グループ間、グループ外を含めた研究者・愛好者との連携をはかり、研究集会や公開講座等を企画しつつ研究を進めた。

代表者・分担者は申請大学に所属している。なかで桐原は別の機関の学芸員でもあり、桐原の所属する蓬左文庫および徳川美術館所蔵の資料が重要な価値をもつ。同文庫・同美術館は、本研究の成果を一般社会に還元することをも目指すシンポジウムや展示企画の主要な会場ともなった。

本研究は、異なる分野の研究者の相互交流によって、個別の研究分野になかった視点、方法論を獲得し、斬新な観点による総合的な研究成果を得ることを目指した。さらに、本研究は、人文学の研究と社会との交流を実現しようとした。研究集会、公開講座等を企画することによって、地域に密着しつつ、広く深い総合的な成果を得ることを目指した。

4. 研究成果

国際研究集会3回を含む計16回の研究集会・講演会を催し、さらに文物の展示会1回、伝統芸能の実演2回を行い、総計2,200名(展示会の人数は不明のため除く)の参加を得た。これらの成果をもとに単行本5冊を編集した。その単行本は、古代文学・語学・歴史関係1冊、中近世文学関係1冊、古代から近代までの文学・文物関係1冊、近代文学関係1冊、さらに、平家物語の語りおよび本文についての研究1冊にDVDを付して編集した。DVDの内容は、平曲の盲人伝承のただ一人の継承者による実演とその語りの本文・索引を同時に1画面で見せ、芸能・音曲の面からの研究にも使える資料としたものである。これら5点の公刊に加え、各人が各々の専門分野の学術誌・学会発表に論を発表することによって、古代から近代に渡り戦が文化・文物に影響したさまを広く研究し、中国・朝鮮との関わり、さらにヨーロッパとの比較の視点をも取り入れて、総合的な研究を実現した。さらに、文物の展示企画、伝統芸能(絵解き、平曲の語り、能・狂言、日本舞踊)の実演をおこない、これらをDVD映像記録に残した。地域の一般の人々を含む参加者、来場者は

2,200名を越え、研究集会、公開講座等によって地域に密着しつつ知見を深め、広く総合的な成果を実現した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計13件)

- ① 犬飼隆、天草版平家物語と平家正節の「入声」、説林、60号、pp.81-90、査読無、2012.
- ② 福沢将樹、天草版平家物語と捷解新語—謙讓語を中心に—、説林、60号、pp.63-79、査読無、2012.
- ③ 中根千絵、神々の伝える薬—『仁和寺宝庫大日本神薬書紀』をめぐって—、伝承文学研究、60号、pp.136~148、査読有、2011.
- ④ 犬飼隆、天平期の学制改変と漢字文化を支えた人材、萬葉語文研究、6集、pp.23-36、査読無、2011.
- ⑤ Yumiko MARUYAMA、The Adoption of the *Ritsuryo* Code and Their Civilizing Influence、ACTA ASIATICA (東京・英文)、volume99、pp39-58、査読無、2010.
- ⑥ 丸山裕美子、唐日医疾令的復原與対比—対天聖令出現之再思考、法制史研究、(台北・中文)、卷16、pp.57-90、査読有、2010.
- ⑦ 宮崎真素美、〈ふりむかぬ〉者と〈ふりかえる〉者—「海ゆかば」、防人歌から「橋上の人」へ—、説林、58号、pp.41-59、査読無、2010.
- ⑧ 遠山一郎、額田王と天智天皇との万葉歌、説林、57号、pp.1-14、査読無、2009.
- ⑨ 丸山裕美子、敦煌写本「月儀」「朋友書儀」と日本伝来『杜家立成雑書要略』—東アジアの月儀・書儀—、東洋文庫論叢72『敦煌・吐魯番出土漢文文書の研究』、pp.115-13、2009.
- ⑩ 宮崎真素美、戦時下のロマンティズム—詩誌「故園」をめぐる世界—、日本現代詩歌研究、8号、pp.45-60、2008.
- ⑪ 山口俊雄、石川淳「鸚鵡石」論—典拠『武辺雑談』との比較、國語と國文學、85巻4号、pp.35-49、査読有、2008.
- ⑫ 久富木原玲、薬子の変と平安文学—歴史意識をめぐって—、愛知県立大学文学部論集、56号、pp.17-48、査読無、2008.
- ⑬ 宮崎真素美、八王子の「蝶」—戦時下の若き詩人たち—、國語と國文學、85巻1号、pp.58-72、査読有、2007.

[学会発表] (計15件)

- ① 久富木原玲、薬子の変の波紋としての歴史語り・文学・伝承—第二次世界大戦下から中世・古代へと遡る、物語研究会、2011年9月17日、学習院大学.
- ② 山村亜希、防長における中世都市の立地と景観、第54回歴史地理学会大会公開講演会、2011年6月25日、山口大学.

③ 桐原千文、蓬左文庫について—尾張藩御文庫から公開文庫へ—。愛知大学言語学懇話会公開講座「言語」、2011年10月29日、愛知大学車道校舎.

④ Yumiko MARUYAMA、On the manuscript known as Yue-yi written by Suo Jing of the IOM Collection、Second Meeting of the Roundtable “Talking about Dunhuang on the Riverside of the Neva”、2010年9月3日、ロシア・サンクトペテルブルク Institute of Oriental Manuscript.

⑤ Yumiko MARUYAMA、The Genealogy of Medical Doctors in Ancient Japan、Medical Doctors in History of East Asia、2010年8月27日、韓国・ソウル・延世大 学校.

⑥ 犬飼隆、日本語表記史における音訓交用の精練史、第2回日韓訓読シンポジウム、2010年12月11日、麗澤大学.

⑦ 宮崎真素美、眠らない詩人たち、日本近代文学会平成22年度春季大会特集テーマ「夢の〈ふるまい〉」、2010年5月23日、大東文化大学.

⑧ Aki Yamamura、The Re-making of urban landscape in Early-Modern Japan、The 14th International Conference of Historical Geographers、2009年8月23日、京都大学.

⑨ 山村亜希、信長の城下町、小牧市連続歴史講座招待講演、2009年5月13日、小牧市まなび創造館あさひホール.

⑩ 山村亜希、守護所の立地と景観、第5回鳥取県中世城館シンポジウム招待講演『新説・天神山城—因幡守護所の実態に迫る—』、2009年10月24日、鳥取県立鳥取緑風高等学校体育館.

⑪ 丸山裕美子、唐日医疾令的復原と対比—対天聖令出現之再思考—、新史料・新観点・新視角—天聖令国際学術研究会、2009年11月1日、台湾・国立台湾師範大学.

⑫ 桐原千文、徳川家康の蔵書「駿河御讓本」、愛知県立大学・徳川美術館・蓬左文庫主催公開講座「家康の遺産」、2009年11月6日、徳川園ガーデンホール.

⑬ 宮崎真素美、山口俊雄、佐々木雄太、明治新体詩と軍歌、愛知県立大学「県大ファンファーレ」公開講義、2008年11月5日、愛知県立大学.

⑭ Aki Yamamura、The Landscape of Local political cities in Medieval Japan、第14回国際中世学会、2007年7月9日、英国・リーズ大学.

⑮ 山村亜希、日本中近世における地方城下町の景観、東アジア伝統都市景観国際学術大会、2007年12月20日、韓国・慶尚大 学校.

[図書] (計13件)

- ①久富木原玲, 中根千絵, 高橋亨、武家の文物と源氏物語絵—尾張徳川家伝来品を起点として、翰林書房 2012年、pp. 493.
- ②山口俊雄、日本近代文学と戦争—「十五年戦争」期の文学を通じて、三弥井書店、pp. 265、2012年.
- ③中根千絵、いくさの物語と諧謔の文学史、三弥井書店、pp. 238、2010年.
- ④丸山裕美子, 遠山一郎、いくさの歴史と文字文化、三弥井書店、pp. 260、2010年.
- ⑤山村亜希, 千田嘉博, 矢田俊文、都市と城館の中世—学融合の試み—、高志書院、pp. 405、2010年.
- ⑥山口俊雄, 鈴木貞美、石川淳と戦後日本、ミネルヴァ書房、pp. 632、2010年.
- ⑦Yamamura, Aki, Kinda, Akihiro、*A Landscape History of Japan*、KyotoUniversityPress、pp282、2010.
- ⑧遠山一郎、「平家正節」盲人伝承八句—ライブ映像と検索、双光エシックス、pp. 70、2009年.
- ⑨吉村武彦, 山路直充, 犬飼隆、房総と古代王権、高志書院、pp. 373、2009年
- ⑩宮崎真素美, 山口俊雄, 安藤宏、展望 太宰治、ぎょうせい、pp. 279、2009年.
- ⑪山村亜希『中世都市の空間構造』吉川弘文館、pp. 322、2009年.
- ⑫山村亜希, 五味文彦, 小野正敏、中世都市研究 14 開発と災害、新人物往来社、pp. 471、2008年.
- ⑬犬飼隆、漢字を飼い慣らす、人文書館、pp. 241、2008年.

〔その他〕

- ①久富木原玲、『源氏物語』の女たちの〈いくさ〉、講演会『源氏物語』と「いくさ」—葉子の変をめぐって—、2010年12月11日、徳川園。(来場者約120名)
- ② Keith Lilley、Castle-towns and conquerors: urban landscapes and their shapers in medieval Britain and Ireland, 1066-1307 CE、千田嘉博、城郭の比較考古学、山村亜希、戦国都市からの継承と断絶—尾張における城下町の景観—、中島茂、近世都市大阪の近代—軍・官・民による産業化と都市化—、国際研究集会「日本とイギリスの城とまち」、2011年12月4日、愛知県立大学。(来場者約110名)
- ③研究集会「天草版平家物語—原拠本と日本語の歴史—」、2011年6月11日、愛知県立大学。(来場者約30名)
- ④展示：源氏物語の世界、2010年11月2日～12月19日、徳川美術館・蓬左文庫。(来場者数不明)
- ⑤国際会議研究集会：日本近代文学と戦争、2010年11月14日、愛知県立大学。(来場者約140名)

- ⑥公開講座「家康の遺産と尾張徳川家の名宝」、2010年11月7日、徳川美術館講堂(来場者約70名)
- ⑦公開講座：家康の遺産、2010年11月6日、徳川園。(来場者約80名)
- ⑧研究集会映像記録DVD：映像と音で探る東西の地獄絵—神曲と六道絵—、2010年6月19日、浄願寺.
- ⑨研究集会：映像と音で探る東西の地獄絵の旅～神曲と六道絵～、2010年6月19日、浄願寺。(来場者約60名)
- ⑩能と狂言の催し、2009年6月7日、名古屋市能楽堂。(来場者約550名)
- ⑪宮崎真素美、研究集会：文字文化は〈命の泉〉—戦時下名古屋の女子教育—：卒業生長谷川文子氏に聞く、2009年6月、愛知県立大学。
<http://www.lit.aichi-pu.ac.jp/kb/kibanS07/ronbun-m.html> .
- ⑫平曲譜本シンポジウム、2008年11月29日、愛知県立大学。(来場者約40名)
- ⑬研究集会と伝統芸能実演映像記録DVD：いくさ語りの世界—語り・芸能と国際シンポジウム—、2008年10月11日、名古屋能楽堂.
- ⑭遠山一郎, 久富木原玲、講演会：いくさが投げかけた影、2008年6月28日、愛知県立大学。(来場者約120名)
- ⑮講演会：防人のたび、2008年6月14日、愛知県立大学。(来場者約60名)
- ⑯講演会：戦の物語の変容、2008年5月24日、愛知県立大学。(来場者約100名)
- ⑰公開研究集会：七世紀東アジアの戦と国家形成、2008年5月18日、愛知県立大学。(来場者約100名)
- ⑱講演会：ワートルローとイギリスの愛国主義、2008年2月2日、長久手町文化の家。(来場者約90名)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠山 一郎 (TOYAMA ICHIRO)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：801321174

(2) 研究分担者

丸山 裕美子 (MARUYAMA YUMIKO)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：00315863
久富木原 玲 (KUHUKIHARA REI)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：10209412
中根 千絵 (NAKANE TIE)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：80326131
宮崎 真素美 (MIYAZAKI MASUMI)
愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：50249281
山村 亜希(YAMAMURA AKI)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：50335212
犬飼 隆(INUKAI TAKASHI)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：20122997
桐原 千文(KIRIHARA CHIHUMI)
愛知県立大学・日本文化学部・非常勤講師
研究者番号：00444951

(3)連携研究者

山口 俊雄 (YAMAGICHI TOSHIO)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：80315861
福澤 将樹(HUKUZAWA MASAKI)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：30336664
高橋 亨(TAKAHASHI TORU)
名古屋大学大学院文学研究科教授
研究者番号：10093048
吉田 永弘(YOSHIDA NAGAIHIRO)
国学院大学文学部日本文学科准教授
研究者番号：30363906
小谷 成子(KOTANI SHIGEKO)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：00086258